

## 検査の信頼性と妥当性 I

検査に備えるべき条件として信頼性と妥当性という概念がある。これは心理検査に限らず心理測定の中で求められる条件である。「心理検査の信頼性と妥当性 I」では、信頼性と妥当性について概略を学ぶ。

### 信頼性 (reliability)

測定値は、誤差の少ない安定した値であることが望ましい。信頼性とは、測定の精度に関する度合いを表している。測定値が一貫して安定しており、変動しないか、また正確に測定されているのかという観点から評価される。測定用具としての心理検査を評価する基準として信頼性係数 (coefficient of reliability) を算出する。信頼性係数を推定する方法には、a) 再検査法 (再テスト法)、b) 平行検査法 (代替形式法)、c) 折半法、d)  $\alpha$  係数が代表的である。

a) 再検査法は、同一のテストを同一集団に実施し、一定の期間をあけて繰り返し同じテストを同一集団に実施する。集められた 2 時点の測定値の間の相関係数を算出する方法のこと。ただし測定間隔が短い場合に、最初の測定結果が次の結果に影響を与える可能性がある。

b) 平行検査法 (代替形式法) は、再検査法の短所を補うために考え出された。これは内容や量、難易度、目的を第 1 回目と同等であると考えられる設問を 2 回目のテストとして提示する方法である。しかし同等の設問を 2 回にわたって作成することが非常に難しいことが問題である。

c) 折半法は、平行検査法を改良したものとして理解できる。つまり 1 個のテストを、2 つに分ける。視点を変えれば、2 個のテストを同時に 1 回で実施したとみなすことになる。テストを 2 分割した値の相関係数を算出する。

d)  $\alpha$  係数は Cronbach によって考案された。折半法で 2 分する場合の全ての組み合わせを考えて、その相関の平均値が  $\alpha$  係数である。

上記の c) と d) は、尺度の各項目間の反応の一貫性の度合いを信頼性係数としていることから内的整合性 (internal consistency ※内的一貫性とも訳される) による方法と呼ばれている。

### 妥当性 (validity)

心理測定では、直接観察できない対象を測定するように求められる。妥当性とは、測定しようとしているものを本当に測っているのかという度合いを表している。妥当性は、i) 内容的妥当性 (content validity)、ii) 基準関連妥当性 (criterion-related validity)、iii) 構成概念妥当性 (construct validity) に大きく分けられる。

i) 内容的妥当性とは、尺度項目作成過程の適切さ、尺度の内容を専門家が理論的に考察することを指す。数量的な評価は難しい。

ii) 基準関連妥当性とは、測定に用いる検査と関連ある外部の基準 (既に信頼性・妥当性が

確認された検査)と照らし合わせることで検討される。今回実施する検査と外部基準とする検査の測定時期によって併存的妥当性 (concurrent validity) と予測的妥当性 (predictive validity) に分けられる。併存的妥当性は、外的基準と同時点に測定する。一方、予測的妥当性は、外部基準の測定が、テストの実施より後になる。入学試験が、入学後の成績を予測できる場合に、両者の相関は予測的妥当性の程度を算出することになる。

iii) 構成概念妥当性とは、理論仮説と尺度の間に理論的な矛盾が生じていないことをみることである。理論仮説とは、心理検査で測定しようとしている概念のことである。例えば、不安、知能、職業適性などは一定の理論的枠組みから考え出された構成概念である。これらの構成概念と心理検査で測定された値との間で結果が一致していることが構成概念妥当性で必要とされる。実際には、妥当性係数 (validity coefficient) と呼ばれる心理尺度と外的基準との間の相関係数を求める。

### レポート課題

レポート作成時に注意すべき点として「引用文献」には、必要に応じて文献を記載すること。なお本文に引用していないが、各自の理解を深めるために使用した資料がある場合は、「参考文献」として別に節を設けて文献を記載すること。

- 1) 信頼性の概念を整理して報告すること。
- 2) 信頼性を高めるにはどうしたらよいか、参考文献等を参照しながら各自で調べて報告しなさい。
- 3) 妥当性の概念を整理して報告すること。

### 参考文献

堀洋道・山本真理子・松井豊(編) 1994 心理尺度ファイル 垣内出版  
堀洋道(監修) 2001 心理尺度測定集 I・II・III サイエンス社  
市川伸一編著 1991 心理測定法への招待 測定から見た心理学入門 サイエンス社  
鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤(編) 1998 質問紙法 北大路書房